くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2014年3月1日
（No.73・豪雪きれいだし迷惑だし号）

2014＊3月

NPO法人エコシティ志木
代表理事　天田 眞
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
http://kappa-no.net/eco-shiki/

写真：山崎光久

志木につらなる川の風景（1）

新河岸川と柳瀬川の合流点

志木市のほぼ中央に位置するところに、新河岸川と柳瀬川の合流点があります。写真の右側が新河岸川の流れで、左側から柳瀬川が合流しています。新河岸川は舟運が盛んに行われていた川で、高低差が少なく、とても緩やかな川です。柳瀬川は高低差があり、流れも速く、川底にも運ばれてきた小石が堆積し、水も透き通っています。この合流点を囲むように、いろは親水公園があり、春には桜の名所ともなっています。　（青木明雄）

1月12日（日）

ガンカモ類の生態調査に協力参加

毎年恒例の埼玉県生態系保護協会主催の「ガンカモ類の生態調査」が行われ、参加した同協会志木支部に調査協力をしました。

志木大橋から市役所の先の新河岸川との合流地点まで約2kmを参加者16名で歩いてカモの種類と数を数えました。

県内全体のカモは、17種32,515羽で、昨年17種32,318羽からは、種類は変わらず、数で197羽増でした。ただ昨年は大雪が降り、調査を中止した支部がある一方、今年は調査地点が199地点で、昨年より15地点増えたことを勘案すると、カモは相当減っていると思われます。ガンカモ調査となっていますが、県内では4年連続でガン類は確認されていません。

柳瀬川では、カモは4種228羽で、昨年と種類は同じでしたが、数は10羽減りました。内訳は次のとおりです。（　）は昨年

ヒドリガモ	１３７羽	（１０９羽）
オナガガモ	５羽	（　２０羽）
コガモ	６１羽	（　６７羽）
カルガモ	２５羽	（　４２羽）

この7年間はずっと200羽台で、20年前の1994年頃は1200羽台、10年前の2004年頃は400羽台でしたから、その減少は注目するものがあります。原因は釣り人が増えたこと、毎年冬場に橋の耐震化工事や川の浚渫工事が行われていること、旧ワイス跡地に商業施設やマンションができ日当たりも悪くなっているなど複合的で、全体の数が少ないため調査区間内の分析も難しい状況です。ただし野鳥にとっての環境は年々厳しくなっているであろうことは事実だと思います。

（山崎光久）

2月2日（日）柳瀬川・冬の野鳥観察会

柳瀬川にメンバーが増えました

［写真：毛利将範］

曇天で寒い日でしたが、会員9名と一般25家族32名もの参加がありました。サミット前ではスタートの挨拶にメジロも参加です。

サミット裏から下流へ歩くと、ヒドリガモ・コガモ・オナガガモ・アオサギ・イカルチドリ・キセキレイ等に会えました。富士見橋から志木中学校までの間では黒い姿に白い嘴のオオバン4羽が主役。ボートを漕ぐ様なユーモラスな泳ぎと潜水は魅力です。オカヨシガモも1羽見つかりました。どちらも昨シーズンまでは観察されていません。嬉しいですね。柳瀬川にメンバーが増えました。

現在､河川敷に長年掛けて溜まった土を掘削し、元の高さに戻す工事が行われています。工事について、柳瀬川の流れや水質等についての話もさせて頂きました。工事の柵で人との距離が保たれているため、鳥達は安心しているかも知れません。

高橋を過ぎ市役所手前。ゴルフ場ネットの支柱高くの所に鷹の仲間のチョウゲンボウが留まりました。遠目にも堂々とした姿です。私達の頭上すぐ近くにはホオジロがいて、可愛らしさに思わずにっこり。解散間際にはカワウが10羽以上の群れで飛来し着水。贅沢なエンディングとなりました。

当日は全部で29種類の野鳥が見られ、お子さん達はその姿を丁寧にスケッチしていました。会話も弾み、とても楽しい時間でした。（大田文佳）

2013年　柳瀬川の野鳥集計

4月・10月の調査は雨天のため中止です。

12月には柳瀬川初記録のオオバンが観察できました。また、カモ類では、ヒドリガモが微増の270羽、次いでカルガモ189羽、コガモ177羽で、カモ類は依然減少傾向です。水質の向上で増えた釣り人などの影響も考えられますが原因は不明です。（毛利）

●調査方法

1）毎月第3日曜日午前（4月・10月は雨天のため中止）
　1997年6月より実施
2）一定の速度で歩きながら出現した野鳥の種名・数を記録。
3）コース　　志木中学校前 → 高橋 → 栄橋 → 柳瀬川左岸 → 水谷田んぼ → 富士見橋 → 志木中学校前

＊主催＝NPO法人エコシティ志木／埼玉県生態系保護協会志木支部
＊記録＝山崎光久／鈴木民雄

	鳥　　名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	カイツブリ	2	0	1	-	0	0	0	0	0	-	0	2
2	カワウ	2	10	4	-	4	4	0	0	0	-	1	3
3	ヒドリガモ	71	76	58	-	0	0	0	0	0	-	21	44
4	コガモ	57	51	46	-	0	1	0	0	0	-	9	13
5	マガモ	0	0	1	-	0	0	0	0	0	-	0	0
6	カルガモ	12	35	17	-	11	33	12	23	34	-	6	6
7	オナガガモ	0	2	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0
8	アオサギ	6	2	0	-	2	2	3	2	2	-	7	6
9	ダイサギ	3	0	1	-	1	0	1	0	4	-	3	1
10	アマサギ	0	0	0	-	0	4	0	0	0	-	0	0
11	コサギ	4	2	2	-	0	0	0	2	0	-	6	5
12	オオバン	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	0	3
13	セグロカモメ	2	1	1	-	0	0	0	0	0	-	2	0
14	イカルチドリ	13	14	2	-	0	0	9	8	6	-	12	24
15	コチドリ	0	0	1	-	2	1	1	0	0	-	0	0
16	イソシギ	6	4	5	-	1	0	0	4	1	-	7	10
17	タシギ	0	5	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0
18	ノスリ	1	0	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0
19	チョウゲンボウ	1	0	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0
20	キジ	1	0	1	-	3	2	1	0	0	-	0	0
21	キジバト	28	22	14	-	8	2	7	1	7	-	3	3
22	コゲラ	0	0	2	-	0	0	0	0	0	-	0	0
23	ヒバリ	0	5	3	-	2	4	0	0	0	-	2	0
24	ツバメ	0	0	0	-	11	9	18	15	1	-	0	0
25	キセキレイ	2	4	2	-	0	0	0	0	0	-	4	0
26	ハクセキレイ	8	14	11	-	4	4	1	0	2	-	8	15
27	セグロセキレイ	6	10	4	-	0	0	0	0	0	-	1	4
28	タヒバリ	6	16	3	-	0	0	0	0	0	-	4	17
29	ヒヨドリ	12	1	7	-	4	0	0	0	0	-	7	18
30	モズ	0	2	1	-	0	0	0	0	0	-	0	1
31	ジョウビタキ	1	2	1	-	0	0	0	0	0	-	0	2
32	ツグミ	17	21	15	-	1	0	0	0	0	-	0	0
33	ウグイス	0	0	3	-	0	0	0	0	0	-	0	0
34	オオヨシキリ	0	0	0	-	10	7	6	0	0	-	0	0
35	セッカ	0	0	0	-	0	4	2	1	1	-	2	0
36	シジュウカラ	2	2	5	-	2	1	0	0	2	-	0	0
37	メジロ	0	4	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0
38	ホオジロ	2	1	3	-	0	0	0	0	0	-	0	2
39	ホオアカ	2	1	0	-	0	0	0	0	0	-	0	1
40	カシラダカ	0	22	0	-	0	0	0	0	0	-	0	1
41	アオジ	0	0	1	-	0	0	0	0	0	-	0	0
42	オオジュリン	0	0	7	-	0	0	0	0	0	-	0	0
43	カワラヒワ	20	40	19	-	9	4	6	4	2	-	2	2
44	シメ	0	1	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0
45	スズメ	124	198	81	-	41	48	28	9	57	-	90	45
46	ムクドリ	59	66	68	-	34	59	26	3	1	-	5	14
47	オナガ	0	0	0	-	1	0	0	0	0	-	0	0
48	ハシボソガラス	2	5	1	-	8	5	5	2	0	-	4	1
49	ハシブトガラス	5	3	4	-	3	3	0	0	3	-	0	2
	ドバト	6	8	2	-	10	0	2	1	3	-	1	0
	アイガモ	0	0	3	-	2	0	0	0	0	-	0	0

2月18日（火）志木市ふれあいミーティング

香川武文市長と懇談しました

ミーティングには香川武文志木市長・道路公園課課長・職員1名と当会員8名が出席し、いろは親水公園「ヨシ・オギ群落保全地」の保全について当会から提案をおこないました。いろは親水公園は埼玉県の「水辺再生100プラン事業」で整備され、平成25年度に志木市に管理移管された場所です。

天田代表から資料とプロジェクターによる当会の沿革と活動紹介、毛利副代表から提案事項の説明をおこないました。

昨年、保全地の観察調査をした結果、①ヨシ・オギのまとまった群落がある ②湧水がある ③カヤネズミ（埼玉県準絶滅危惧種）の生息を確認したこと、一方で①外来種オオブタクサ（要注意外来生物）の大繁殖 ②保全地の乾燥化が進行している課題があることを説明。そして、保全地の湿地環境を回復しカヤネズミなど多様な生き物が生息できるヨシ・オギ群落地とするため、今後の対策として ①積もった土砂の掘り下げ ②湧水など湿地環境の維持 ③公園利用者向けの掲示板設置 ④冬季の刈り取り ⑤ヨシ焼き ⑥オオブタクサの継続的な駆除作業などを提案しました。そして、当会としてできることは他団体とも協力しながらやっていきたいということも伝えました。

香川市長も、当会の事業や提案内容に理解を示し考えてくださり、説明の途中で「刈ったヨシは村山快哉堂の事業などでも使えるのではないか」とか「近くの学校などと協力すれば市民みんなで守っているという意識になる」というような提案もいただきました。しかし、掘り下げなどについてはすぐには結論が出ず、道路公園課と埼玉県との調整や検討ということになりました。

部屋を出て、市長から私に「良いミーティングであった」と言われました。　（山口美智江）

柳瀬川の浚渫工事

外来種・セイバンモロコシの駆除を期待

柳瀬川では毎年浚渫工事を行っています。上流から流れてきて堆積し続けている土砂を浚渫する工事です。5回目になる今年は柏町の志木中学校前あたりを中心に現在実施中ですが、今までの工事場所は次の通りです。

① 2010年冬　志木大橋下流～東上線上流
② 2011年冬　新座市境界～志木大橋付近
③ 2012年冬　富士見橋～志木中の上流
④ 2013年春　東上線～富士見橋
⑤ 2014年冬　志木中前～階段と河童像の付近

①～③では低水路（普段水が流れている部分）の砂礫の掘削、④では低水路の砂礫及び右岸高水敷（低水路の上の草地の部分）の土の掘削、⑤では低水路は掘らずに両岸の高水敷の掘削のみを行っています。また③では浚渫に加え、治水上必要が無い左岸側低水路護岸（40年ほど前にコンクリートで造られたもの）を撤去しました。

柳瀬川の高水敷では当会が長年にわたってオオブタクサ・アレチウリの駆除作業を実施してきましたが、近年は多年草のセイバンモロコシの増殖が著しく、駆除が困難になっていました。今回の工事では高水敷を50～100㎝削り取るのでセイバンモロコシの根が駆除されるものと期待しています。　（天田 眞）

震災時に河川水を消火用水として活用できるようにと、県が17年前に工事したところが掘りだされた

当会のパネル展示

新規パネルも作成し豊富な写真で紹介する活動風景

NPO 法人エコシティ志木では、各種イベント等で活動内容を紹介するために、写真パネルを作成し、展示しております。

従来あった水塚関係・外来植物関係等の写真に加えて、月３回の斜面林の手入れ、第３日曜日の柳瀬川ウォッチングなどの毎月の定例活動の他、新河岸川ぶらり散歩、春と秋の「志木の自然観察」、6月の「身近な川の一斉調査」、「外来植物駆除」、夏の「川の生き物をしらべよう」等の例年行っているイベント風景、さらに、昨年の「ヨシ・オギ群落保全地の調査観察」や「水辺応援団養成講座」、「荒川の廃村を訪ねて」などの特別企画の活動風景についての写真を新規に作成しました。

「第９回川でつながる発表会」での展示風景（２月９日）

今後、総合学習風景等の活動風景も追加したいと思いますし、新しい取り組み等についても、その都度、写真パネルを作成し充実させていきたいと思っています。

秋の黒目川祭りや市民まつりなどで展示

これらの新しいパネルは、昨年 11 月 16 日（土）の朝霞県土事務所主催の「秋の黒目川祭り」から使い始め、17 日（日）に行われた志木市「市民まつり」、26 日（土）に行った「志木の杜水族館」においても展示をしました。30 日（土）の「新河岸川流域川づくり懇談会（朝霞リサイクルプラザ）」においては、天田代表の講演内容に合わせて、水塚関係のパネルを展示しました。

今後もテーマ・状況に合わせたパネル展示を行っていきたいと思います。

川の再生交流会で活動紹介

今年に入ってからは、1 月 13 日（日・祝）に埼玉県主催の「川の再生交流会」がさいたま市民会館で行われましたが、1 階ロビーに活動内容を紹介するパネルの展示を行いました。

この会は、川の再生活動を行っている団体が一堂に集まり、活動事例の発表や意見交換を行いながら交流を深める会です。午前中の活動報告に続き、午後には７つの分科会に分かれて意見交換と交流が行われました。エコシティ志木も３つの分科会に分かれて参加しました。

川でつながる発表会

２月９日（日）には、「新河岸川流域川づくり連絡会」及び「新河岸川総合治水協議会」主催の「第９回川でつながる発表会」が川越市立仙波小学校体育館で行われました。午前中に「仙波河岸周辺のまちあるき」を行う予定でしたが、前日の記録的な大雪で、現地見学の代わりにスライドでの説明となりました。午後は、小学生から大学生・市民団体の活動発表が行われました。この会場にも朝から、活動状況を紹介するパネル展示を行いました。

これからも各種イベントにて、パネル展示を行い、多いに活動を PR していきたいと思います。

（青木明雄）

野火止用水の今を訪ねる

NPO法人エコシティ志木代表理事　**天田　眞**

新座市本多の平林寺堀分岐点

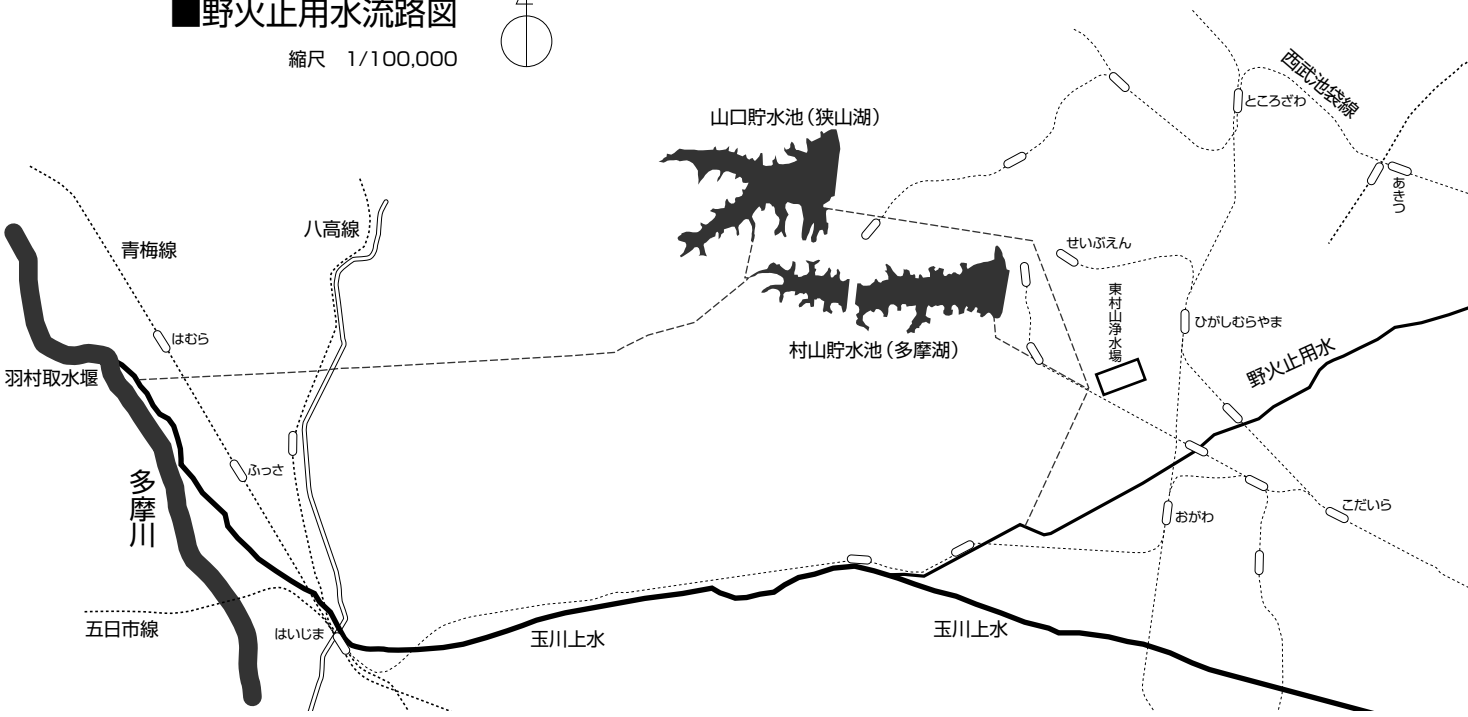
玉川上水と野火止用水

幕府開府 50 年、大都市になった江戸は水不足になり、多摩川の水を利用した玉川上水が計画されました。老中の松平信綱と家臣の安松金右衛門の指導のもと、玉川兄弟が工事を請負い、1654（承応 3）年に完成しました。羽村で多摩川に堰を設けて取水し、武蔵野台地を東に四谷大木戸まで 43km、標高差 92m を流れました。

翌 1655（承応 4）年、川越藩主でもあった松平信綱は、玉川上水から 3 割の水を分水し野火止用水を開削しました。玉川上水の 33 ある分水の中で最も古く、最も分水量が多く、玉川上水開削の功績により分水を許されたといわれています。分水地点は小川村（小平・東大

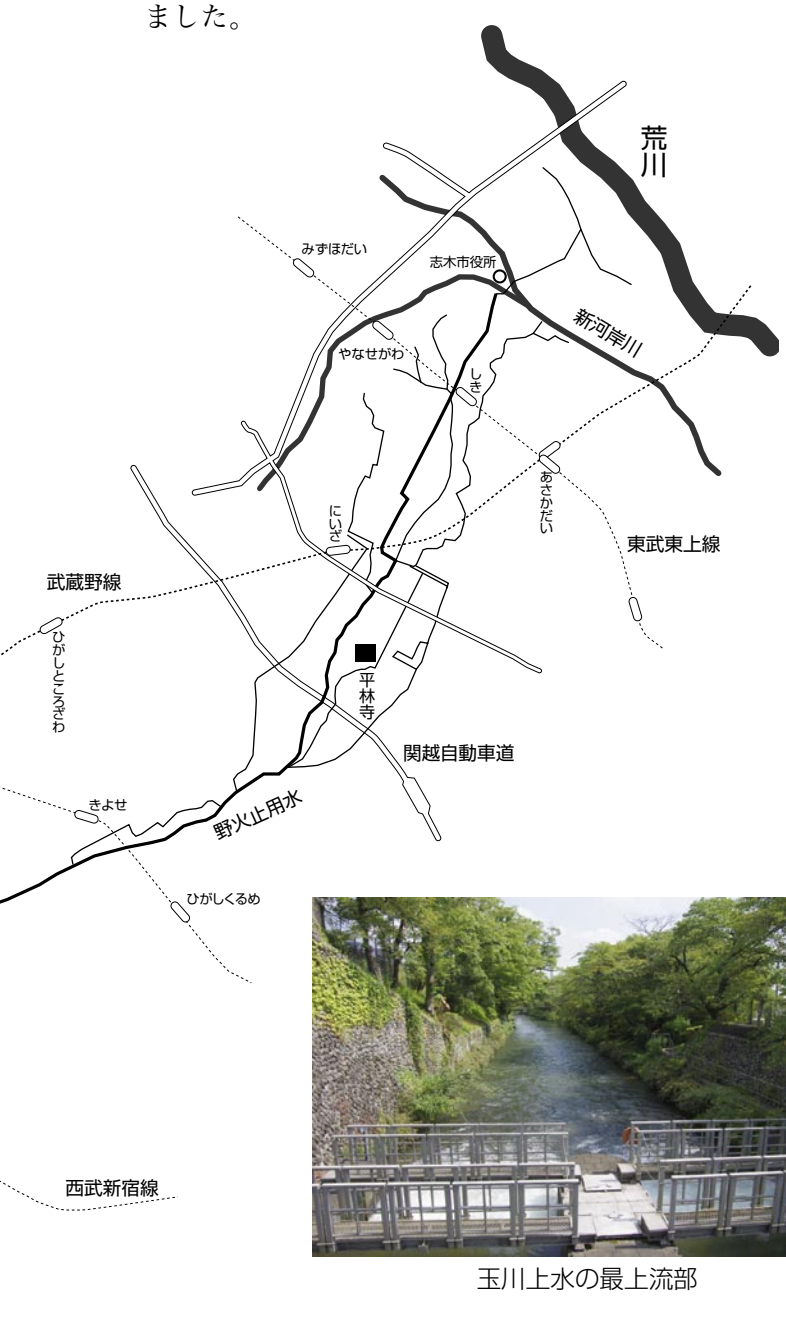
■野火止用水流路図

縮尺　1/100,000



和・立川市の接する地点）で、武蔵野台地を北東に横断し、引又宿（現志木市）の新河岸川まで24km、標高差80mを流れました。その後1662（寛文2）年に、新河岸川を渡る掛樋『いろは樋』（長さ260m、川からの高さ4.4m）が造られ、宗岡村まで流れるようになりました。

野火止用水開削の目的は信綱の領地である野火止台地の新田開発と、松平家の菩提寺である平林寺を岩槻から移建するためでした。最初に入植した54軒は、平林寺周辺の野火止・北野・菅沢・西堀（いずれも現新座市）に定住し、平林寺の移建は信綱が死去した翌年の1663（寛文3）年に実現しました。用水の用途は主として飲用水・生活用水ですが、水車（精米・精麦・製粉、後には撚糸や伸銅も）や最下流では水田灌漑に用いられました。



羽村取水堰　中央が投げ渡し堰

数多くあった分水路

最も上流の新座市新堀（西武池袋線付近）で**八軒廻し堀**、次いで西堀で**菅沢北野堀**、平林寺の上流で**本流・平林寺堀・陣屋堀**に分かれ、川越街道で合流した後、再び4本に分かれて志木方面に向かって流れました。平林寺堀と陣屋堀の一部は低い土地を通るため、堤を築いた上に水路を設けました。

志木地域では、本流は奥州街道（いろは通り）に沿って進み、いろは樋で新河岸川を渡り、宗岡でも奥州街道に沿って荒川方向に流れました。西側の分水は数本に分かれ柳瀬川沿いの水田（志木ニュータウン及び柏町の低地）へ、東側の分水は志木・朝霞境界の谷津地の朝霞側斜面を通り、新河岸川沿いの宮戸村（現朝霞市）の水田へと流れました。新河岸川を渡るいろは樋は、1898（明治31）年に、両岸の煉瓦桝と鉄管により新河岸川の下をくぐる伏せ越し（逆サイフォン）に改築されました。

通水停止と清流復活

1960年代中頃には水不足による通水停止や水質汚染がひどくなり、1973（昭和48）年には通水が停止されました。その後、都県により通水復活への努力が続き、1987（昭和62）年から『清

玉川上水の最上流部

玉川上水下流部の起点　下水処理水が流れる

流復活事業』として、昭島市にある下水処理場の処理水を本流及び平林寺堀に放流しています。

玉川上水の現状

玉川上水の水は 1898（明治 31）年から 1965（昭和 40）年までは新宿の淀橋浄水場（新宿駅西口の超高層ビル街）に送られていましたが、廃止後は野火止用水分水地点にある小平監視所から東村山浄水場に暗渠で送られています。小平監視所から下流の玉川上水には野火止用水と同じ下水処理水が放流されています。

取水地点は江戸時代と同じ羽村取水堰で、現在の鉄筋コンクリート構造物は 1900（明治 33）年に造られましたが、洪水時に堰の破壊を防ぐための投げ渡し堰の仕組み（丸太や小枝の束を組み合わせた堰を洪水時に解体して流す）は昔から変わっていません。羽村で取水した水の一部は取水堰の 500m 下流から山口貯水池（狭山湖）・村山貯水池（多摩湖）へ暗渠で送られています。立川市内では狭山丘陵西側から流れ出す残堀川の下を伏せ越しでくぐっています。

野火止用水跡の現状

玉川上水から分かれた最上流の 2km は暗渠ですが、小平・東大和市境界の緑地公園内の放流口から新川越街道までは基本的に開渠で下水処理水が流れています。この水は途中で分かれる平林寺堀で平林寺境内に流入しています。新旧川越街道の間の本流跡は景観水路として最近新たに掘ったものです。陣屋堀では築堤跡が新座市役所近くの野火止団地南側に残っています。新堀の八軒廻し堀り跡の大部分は歩行者路になっています。西堀の米軍大和田通信所内には菅沢北野堀跡のわずかな窪みがフェンス越しに見られます。

旧川越街道から下流の本流跡は歩行者道になっていますが、志木駅付近では区画整理により消滅しています。東側の分水跡は朝霞市三原で歩行者路になっています。

志木市内にはいろは樋の遺構と模型展示がある他、各所に水路跡があり、現状は通信 52 号（2008 年 12 月）に掲載のとおりですが、本町通りの本流跡は進行中の道路拡幅工事で消滅しつつあります。

野火止用水の最上流部

新座市西堀　水道道路沿い

平林寺の森の裏を流れる本流

平林寺境内に流入する平林寺堀

● 志木 自然インフォメーション ●

生き物情報は→　ファクス 048-471-4275　e-mail：qwj11624@nifty.com（毛利）へ
ホームページ「発見 !! 街の自然」http://kappa-no.net/sizen-info.html

❶オオバン(3) → 12月 15日(日) 柳瀬川で初記録。その後も志木中前上流あたりに 4羽居着いています[毛利将範]

❷アオサギ・コサギ・ダイサギ・カワウ(多数) → 1月 24日(金) 志木大橋付近でサギやカワウが多数集まって水中の何かを捕食しているようでした[坂内]

❸ニホンイタチ(1) →1月 28日(火) 水谷田んぼで[毛利将範]

❹カシラダカ・アオジ・ホオアカ・オオジュリン・キジ → 2月 9日(日) 記録的な大雪の後の水谷田んぼで[山崎光久]

❻大雪で折れたシロダモの枝［天田］

❺オカヨシガモ(♂ 1) →2月 2日(日) 柳瀬川「冬の野鳥観察会」で。柳瀬川で珍しいです[毛利将範]

❻大雪 → 2月 15日(土) 西原第三公園・親水公園こもれびのこみちでは 15日の大雪でシロダモやシラカシ等の常緑樹の大枝が大量に折れました[天田眞]

❼トビ(1) → 2月 16日(日) 柳瀬川・志木中前あたりで。カラスに追われて出てきました[毛利将範]

❶オオバン（1/19）［青木］

❷サギと鵜の群れ［坂内］

❸ニホンイタチ［毛利］

❹キジ♂［山崎］

❹ホオアカ［山崎］

❺オカヨシガモ♂［毛利］

環境 ひとくちメモ（31）　伊藤 智明

「河川協力団体制度の創設」

近年頻発する水害や構造物の老朽化等を踏まえ、水防活動及び河川管理の充実及び連携の強化を図るため、以下のことを実施するための水防法及び河川法の一部改正がありました。

（1）河川管理者による水防活動への協力
（2）事業者等による自主的な水防活動の促進
（3）河川管理施設等の維持又は修繕（必要な技術的基準の策定含む）
（4）河川協力団体制度の創設
（5）従属発電のための水利使用に関する登録制度の創設

この中で身近なものとしては、自発的に河川の維持・河川環境の保全等に関する活動を行う NPO 等の民間団体を支援する「河川協力団体制度」です。河川協力団体とは、以下のような活動をする組織を言います。

①河川管理者に協力して行う河川工事又は河川の維持
②河川の管理に関する情報又は資料の収集及び提供
③河川の管理に関する調査研究
④河川の管理に関する知識の普及及び啓発

河川管理者から河川協力団体の指定を受けると、河川法上の許可等が簡素化され、河川管理施設の維持等（例：魚道改良、ビオトープ整備、堤防除草、河川敷掘削）の委託を受けることも可能となります。

出典：国土交通省 報道発表資料 平成 25 年 4 月 5 日「水防法及び河川法の一部を改正する法律案について」
国土交通省 関東地方整備局 記者発表資料 平成 25 年 12 月 10 日「『河川協力団体』を募集します。」

☆会員状況

2013 年度更新済み（2/20 現在）
個人正会員　　51（新入会 2）
団体正会員　　2
賛助会員　　3
【寄附】
　現金　1 万円　匿名
　剪定ばさみ　4 丁　田中洋子さん

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。
★今年度も継続更新をよろしくお願いします。

■当会の団体正会員
志木おやこ劇場
生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員
慶應義塾志木高等学校
志木柳瀬川ロータリークラブ

■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体
志木おやこ劇場
いろは遊学館利用者の会
志木市コミュニティ協議会
志木市社会福祉協議会
柳瀬川流域ネットワーク
新河岸川水系水環境連絡会
新河岸川流域川づくり連絡会
柳瀬川流域水循環再生市民懇談会
新河岸川広域景観づくり連絡会
彩の国南西部地域ＮＰＯ連絡会
川の国応援団
埼玉県生物多様性保全活動団体登録
彩の国みどりのサポーターズクラブ
志木市公園美化活動会
埼玉県生態系保護協会志木支部
志木のまち案内人の会
志木市放課後子ども教室りんくす
グループぽんぽこ
志木市立教育サポートセンター
市内小中学校

情報満載！
当会のホームページ

ＮＰＯ法人エコシティ志木
http://kappa-no.net/eco-shiki/

志木まるごと博物館河童のつづら
http://kappa-no.net/

◆トピックス

志木小『こどもエコクラブ』に参加しています

志木小学校では月曜日の放課後、4・5・6 年生を対象にクラブ活動が行われています。サッカー等のスポーツ、囲碁・将棋、科学、手芸等色んなクラブがあります。地域の方々も先生となり、子ども達に知識や技術を伝えながら一緒に楽しまれています。

その中の『こどもエコクラブ』に、当会から毎年数名が参加しています。今年度は 20 名以上の子ども達が集まり、活動内容も自分達で決め、伸び伸びと賑やかに活動していました。

さて内容は…　屋上のビオトープ・校庭や時には学校の外にも自然散策に出掛けています。色々な花、木や葉、バッタ、カマキリ、コガネムシの幼虫、メダカ！　虫こぶ、真っ赤な実や紅葉、ススキ、ドングリ…　春夏秋冬、季節の宝物を発見し味わいました。

ビオトープでは外来植物の話を聞いた後、皆でセイタカアワダチソウ抜きもやりました。イネ科の植物が伸び放題で荒れた様子のビオトープを、以前のような形に復活させるにはどうすればいいのだろうと、真剣に意見も出し合いました。それらを元に、池でメダカが元気に泳ぐ姿を観察でき、より楽しめるビオトープにしていけたらいいですね。

子ども達に大人気の「葉脈標本」作り。リクエストにお答えして今年度も行いました。苛性ソーダで煮たヒイラギモクセイの葉を用意し、やり方を説明。皆、歯ブラシで葉肉を黙々と叩いて落とし、標本を完成させていました。透き通って綺麗な葉脈に、どの子もとても満足そうでした。

クラブ活動に参加して、私達も楽しい時間を沢山過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

（大田文佳）

志木の昆虫記18

街で出会える楽しい虫たち

天田 眞

《昆虫の冬越し》

記録的な大雪が降ったりと今年の冬は寒さが厳しいですが、大部分の昆虫は寒さが苦手なので何らかの形で休眠して越冬します。土や腐葉土の中など、寒さを避けられるような場所で越冬するものが多く目に付きにくいですが、中には、寒風にさらされながら、越冬の様子が簡単に見られるものもあります。

卵での越冬が最もよく見られるのはカマキリの仲間。種によって形が異なりますが、西原第三公園ではユキヤナギ等に卵塊（卵鞘と呼び、中に卵が多数入っている）が沢山付いていて、大部分がオオカマキリです。雑木林などではマイマイガの大きな卵塊が木の幹や太い枝で見られます。長さ５㎝程もあり表面は薄茶色の成虫の体毛がびっしりとビロード状に付けられています。マイマイガは年に１回の発生で、冬に限らず１年の大半を卵で過ごします。ツバキやサザンカの葉裏にはチャドクガの卵が付いていることがあります。直径１㎝位の卵塊の表面は成虫の体毛で覆われていますが、チャドクガは幼虫も脱皮殻も成虫も含めて、全て毒があるので要注意です。

サンゴジュやガマズミの葉を食べるサンゴジュハムシは冬芽の脇の樹皮を傷つけ産卵し、その上を糞の様な分泌物で覆っています。春に新芽が開き始めるのと同時に孵化します。

蛹で越冬する蝶では、アゲハ類は目の高さ程の枝に付いていることが多いので見つけやすいです。最近多くなったヒロヘリアオイラガの繭(中に蛹)は幹や太い枝に付いています。大きな穴が空いていれば抜け殻です。

肉食性のカメムシの仲間ヨコヅナサシガメの幼虫はサクラ等の幹の窪みで集団で身を寄せ合っています。

バッタ・キリギリス・コオロギ等の仲間は殆どが卵越冬ですが、クビキリギスは成虫で越冬し、落葉掃きでよく見つかります。

ハラビロカマキリの卵鞘

長さ５㎝程のマイマイガ卵塊

ツバキの葉裏のチャドクガ卵塊

サンゴジュハムシの産卵痕（ガマズミ）

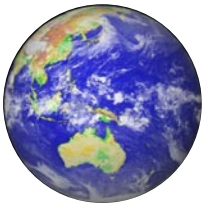
カラスアゲハの蛹

ジャコウアゲハの蛹

ヒロヘリアオイラガの繭

幹の窪みのヨコヅナサシガメ幼虫集団

落ち葉の中のクビキリギス成虫



地球と日本の自然（12）

西ノ島の出現（海底火山）

加藤 健二

2013 年の 11 月 20 日に小笠原諸島の西ノ島の南東 500m に火山新島が出現し、噴煙と溶岩を噴上げ次第に大きく育っていきました。

しかし、1 ヶ月後の 12 月 25 日には西ノ島に接してしまい、一つの島になったので新島の夢は消えてしまいました。

さて、小笠原諸島は東京から 1000km 真南の太平洋に位置し、30 余りの島々で構成されますが、父島・母島・硫黄島・南鳥島などが有名です。これら諸島は 2011 年に世界遺産（自然遺産）に登録されたことは記憶に新しいものです。

今号の話題は海底火山について触れてみたいと思います。太平洋の真ん中の深海で島が突然できることはたいへん不思議な現象ですが、第一の不思議は富士山より深い海底から山ができて島となること、第二は伊豆諸島・小笠原諸島・マリアナ諸島などのたくさんの島がほぼ一直線につながっていることです。

実は伊豆半島も大昔は大きな島でした。伊豆半島は「ひょっこりひょうたん島」のように波にゆられながら長い長い年月をかけて、流れついて日本列島にくっついてしまったのです。(波が島を動かすわけではないのですが)

伊豆半島の元の島が誕生したのはこの現小笠原諸島のあたりですが、おおよそ 2000 万年かけて日本に来たのです。この例から見ると、いずれは西ノ島も日本にやってくるかも知れません。

さて、火山ができるのは「ホットスポット」と

言って地球内部のマグマが吹き出すスポットが海底にもいくつかあって富士山より高い山を形成し、海面に出た頂が島となります。たとえばハワイ諸島やアリューシャン列島などを形成しますが、これら諸島には大きな活火山が存在し今も噴煙を上げています。ホットスポットはほぼ一定の場にあって、海底火山の爆発によって島となりますが、次にこの島は地表の「プレート」に乗って移動していきます。このプレートは亀の甲羅のような地球地表で、非常にゆっくり移動して古い島が一直線につながって行きます。そしてプレートは大陸近くに移動すると、大陸の下に潜り込み地球内部へと沈んでいきます。(プレート移動による地盤の歪みが地震の大きな要因となっています)

写真は西ノ島と新島が接点をもった昨年 12 月の海上保安庁撮影のものを使用させていただきました。海上保安庁のホームページには新島に関するデータがありますので、興味のある方は是非ご覧ください。

編集後記

◇今号から表紙の新シリーズがスタートしました。「志木につらなる川の風景」として様々な川の顔を紹介して行けたらと考えています。◇市内を流れる川は、上流の秩父や狭山丘陵から東京湾まで繋がっています。当然市外の川の風景も含め、そういえば下水路や下水処理場も‥　志木につらなっていますね。　(梟)

エコシティ志木通信
第 73 号　2014 年 3 月 1 日
〈発行〉
NPO法人 エコシティ志木
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX　048-471-1338（天田眞）
URL　http://kappa-no.net/eco-shiki/
E-mail　eco-shiki@ff.e-mansion.com

エコシティ志木のイベントカレンダー

2014年
3月→6月

いろは親水公園こもれびのこみち斜面林の手入れのようす　〈写真：青木明雄〉

親子で自然を楽しみたい人
地域の環境を守りたい人
志木まるごと博物館を楽しみたい人 ……

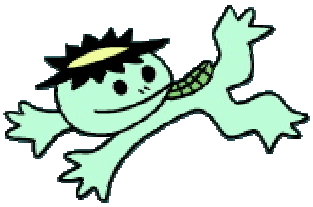
会員募集中!!

■年会費■
正 会 員　個人 **2,400円**　団体 **5,000円**
賛助会員　1口 **5,000円**

■入会方法■　郵便振替等で年会費を納入してください
〈振替番号〉**00510-4-13225**〈加入者名〉エコシティ志木

NPO法人エコシティ志木
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話／FAX 048-471-1338（天田眞）
【ホームページ】http://kappa-no.net/eco-shiki/
【E メ ー ル】eco-shiki@ff.e-mansion.com

イベント情報



●特に記載のない場合、申込不要・参加費は無料です。
●予定は変わることがあるので、事前に問いあわせてください。
●会員には毎月メール及びハガキ等で、別途行事案内をしています。

■ボランティア活動に参加しよう

◆斜面林の手入れ（場所は市内の 2 か所です）

【時間】9 時 30 分～11 時 30 分（雨天中止）
【持物】軍手、作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）あれば剪定用ハサミ・ノコギリ
【主催】NPO 法人エコシティ志木
【協力】埼玉県生態系保護協会志木支部＆志木市道路公園課
【問合】048-471-1338（天田）

＜西原ふれあい第３公園＞

【日程】3 月 9 日(日)・22 日(土)/4 月 12 日(土)・29 日（火・祝）
5 月 10 日(土)・24 日(土)/6 月 7 日(土)・28 日(土)
【集合】9 時 30 分に東上線側入り口の坂を登ったところ
【内容】西原ふれあい第３公園の清掃・下草刈り・保全等の
作業を行います。

＜いろは親水公園＞

【日程】3 月 30 日(日)/4 月 27 日(日)/5 月 25 日(日)/6 月 22 日(日)
【時間】いずれも９時 30 分～11 時 30 分（雨天中止）
【集合】9 時 30 分にいろは親水公園「こもれびのこみち」あずま屋
【内容】「こもれびのこみち」斜面林および新河岸川河川敷で、
ごみ拾い・下草刈り・外来植物の抜き取り等の作業を行います。

◆いろは親水公園「ヨシ・オギ群落保全地」の保全作業

【日程】4 月 6 日(日）（下見）、5 月 4 日(日)、6 月 1 日(日）（雨天中止）
【時間】15 時～16 時 30 分
【集合】富士下橋左岸に 15 時集合
【内容】ヨシ・オギ群落保全地域の外来植物の抜き取りを行います。
【持物】作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）水筒、タオルなど
【主催】NPO 法人エコシティ志木
【問合】080-3154-7056（毛利）

■調べてみよう

◆柳瀬川・野鳥＆川の生き物ウォッチング＜原則毎月第三日曜日＞

【日程】3 月 16 日(日) ／4 月 19 日(土)／5 月 18 日(日)／6 月 15 日(日)
【時間】いずれも９時～12 時（雨天中止）
【集合】９時に志木中学校前の柳瀬川・土手（志木市柏町 3-2-2）

【内容】※最初に全員で河原のゴミ拾いをします。
（１）野鳥：柳瀬川に沿って約 4km 弱を散策しながら調査します。
＜持物＞双眼鏡、あれば野鳥図鑑
（２）川の生き物：柳瀬川で生き物・水質調査やごみ拾いをします。
＜持物＞川に入れる格好、あれば手網・魚類図鑑
【費用】200 円／家族（会員・中学生以下は無料）
【主催】NPO 法人エコシティ志木＆埼玉県生態系保護協会志木支部
【問合】080-3154-7056（毛利）

◆身近な川の一斉水質調査

【日時】６月８日（日）９時～12 時 30 分（小雨決行）
【集合】９時に志木市役所駐車場（志木市中宗岡 1-1-1）
【内容】市内８ヶ所の水を採取し、パックテスト等で水質を測定します。
新河岸川水系約２５０ヵ所、全国約６,０００ヵ所と連携した調査です。
【主催】NPO 法人エコシティ志木
新河岸川水系水環境連絡会、全国水環境マップ実行委員会
【費用】無料
【問合せ】048-471-1338（天田）

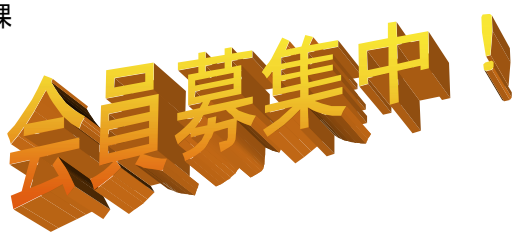
■自然と文化を楽しもう

◆新河岸川ぶらり散歩

【日時】3 月 21 日（金・祝日）　9 時～15 時　（雨天中止）
【集合】9 時に日暮里駅　日暮里・舎人ライナー　改札口前
【内容】日暮里・舎人ライナー　足立小台駅から
隅田川に沿って浅草まで歩きます。
【持物】お弁当、飲み物、歩きやすい服装
【費用】300 円/大人(会員 100 円・中学生以下無料)
【主催】NPO 法人エコシティ志木＆埼玉県生態系保護協会志木支部
【問合】048-471-1338（天田）

◆志木の自然観察（春）「五感で感じる川のまち志木」

【日時】４月 20 日(日）９時～12 時頃（雨天中止）
【集合】旧村山快哉堂前（志木市役所前）
【内容】春のいろは親水公園を散策します。
【持物】筆記用具、あればルーペ、図鑑
【費用】会員無料（一般 200 円／中学生以下は無料
※家族は全員で 1 名扱い
【主催】NPO 法人エコシティ志木＆埼玉県生態系保護協会　志木支部
【後援】志木市教育委員会　生涯学習課
【問合】090-9025-9725（加藤）



活動記録（2013年11月～14年2月）

2013年◆11月◆
23日（土）志木の杜水族館（第2回）
24日（日）いろは親水公園こもれびのこみち定例作業
25日（月）西原ふれあい第三公園定例作業
26日（火）エコシティ志木通信印刷発行作業
30日（土）新河岸川流域川づくり懇談会（県主催）
◆12月◆
1日（日）いろは親水公園ヨシ・オギ原保全検討会
4日（水）大東文化大学ゲスト講義
6日（金）コミュニティ協議会　地域活性化委員会
8日（日）西原ふれあい第三公園定例作業
12日（木）柳瀬川流域水循環再生協議会市民懇談会
13日（金）コミュニティ協議会　広報部会
15日（日）柳瀬川・野鳥＆川の生き物ウォッチング
15日（日）エコシティ志木定例運営会議
16日（月）志木小学校こどもエコクラブ
18日（水）柳瀬川河床掘削工事現場打合せ
22日（日）いろは親水公園こもれびのこみち月例作業
25日（水）コミュニティ協議会　広報部会
28日（土）西原ふれあい第三公園定例作業
2014年◆1月◆
11日（土）西原ふれあい第三公園定例作業
12日（日）埼玉県内一斉ガン・カモ調査（協力）
13日（月）川の再生交流会（県主催）
14日（火）エコシティ志木定例運営会議
16日（木）放課後子ども教室りんくす　お散歩
16日（木）エコシティ志木　広報部会
19日（日）柳瀬川・野鳥＆川の生き物ウォッチング
24日（金）志木市内ＮＰＯ法人連絡会議
24日（土）西原ふれあい第三公園定例作業
25日（日）いろは親水公園こもれびのこみち定例作業
26日（月）志木小学校こどもエコクラブ
◆2月◆
2日（日）冬の野鳥観察会
2日（日）いろは親水公園ヨシ・オギ原保全検討会
4日（月）エコシティ志木定例運営会議
7日（金）首都圏東部いい川づくり研修会
9日（日）川でつながる発表会
10日（月）志木小学校こどもエコクラブ
11日（火）いろは親水公園ヨシ・オギ原保全検討会
16日（日）柳瀬川ウォッチング
17日（月）志木小学校こどもエコクラブ
18日（火）志木市ふれあいミーティング（ヨシ・オギ原保全提案）

NPO法人 エコシティ志木

春の斜面林手入れ

この通信が発行される頃には、「西原ふれあい第３公園」の梅は満開となり、ミツマタもいいにおいを漂わせ、ハナモモもきれいな花を咲かせ始める頃となってきます。やがてヤマブキやシャガ、そしてユキヤナギやアジサイ等次々と花が咲き、花を見に訪れる人も多くなります。一方いろは親水公園の「こもれびのこみち」の方もモクレンやツバキ、そして新河岸川の桜も見事ですが、あずま屋のヤマザクラが咲き、

〈西原ふれあい第３公園のミツマタ。もうすぐ満開です〉

やがて斜面林には、ミズキの花が池に覆いかぶさって咲き、水面に花びらが一面を覆ってしまう程になります。斜面林の大きな落葉樹の葉が繁るまで、温かい春の日差しが地面を温めてくれます。この僅かな時期に、春の野草が芽を出し、花を咲かせます。これらの野草が活動を始めるまでに、斜面林の落ち葉もある程度取り除き、芽が出やすい厚さに整えておく必要があります。

既に、これらの野草が芽を出していますので、せっかく伸びてきた芽を踏みつけないように気を付けなければいけません。手入れできる場所も限られてきます。これから暫くは、木々の若葉ときれいに咲いている野草や春の花木を見守りながら、手入れする楽しい作業となる時期でもあります。

皆さんも、是非、斜面林の手入れ作業に参加していただければと思います。春の日差しを浴びながらの手入れも気分いいですよ！

（青木明雄）